

令和5年度 市長記者会見 発言要旨

令和5年9月28日(木)開催分 **第1部**

- < 開催時間 > 14:00～
- < 会場 > 庁議室(市役所本館3階)
- < 会見案件 > 養浩館庭園 開園 30 周年記念 榎木孝明朗読会
福井市防災センター 地震体験装置のリニューアル
年末に向けたふるさと納税の普及拡大
- < 会見資料 > 養浩館庭園 開園 30 周年記念 榎木孝明朗読会
福井市防災センター 地震体験装置のリニューアル
年末に向けたふるさと納税の普及拡大
- < 出席者 > 市長、総務部長、新幹線整備課長、まち未来創造課長、文化振興課長
予防課長、防災センター所長

< 発表内容 >

【福井市長】

来年3月16日、市民にとって悲願であった新幹線が、整備計画の決定以来、約半世紀の時を経て開業を迎えられることを、大変うれしく、感慨深く思っています。本市のまちづくりにとって新たな幕開けであり、新幹線の効果を最大限に活かせるよう、これからもしっかりと取り組んでまいります。

10月1日には、新幹線福井駅ホームにおいて北陸新幹線 W7(ダブルリーナ)系車両の入線をお祝いする歓迎セレモニーを開催します。当日は来賓や、沿線小学校の児童、多くの応募の中から抽選で選ばれた市民の方々、総勢約550名で新幹線入線をお祝いする予定です。

また、同日、新幹線開業後の広域観光の拠点として、福井駅東口に整備した観光交流センターの供用を開始するにあたり、オープニングセレモニーを開催します。ぜひ、ご来場いただき楽しんでいただけたらと思います。

今後も、こうした節目を捉え、開業に向け市民の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思っています。

はじめに、養浩館庭園 榎木(えのき)孝明(たかあき)朗読会についてご説明します。

養浩館庭園開園30周年を記念して11月3日の文化の日に、ライトアップされた養浩館庭園において、榎木孝明さんによる朗読会を開催いたします。

榎木孝明さんは、一乗谷ディスカバリープロジェクトのメンバーとしてご活動いただく他、10月20日から福井で先行公開される映画「おしよりん」では、北乃きいさん演じる主人公むめ の父親役として出演されるなど、本市の観光振興にご協力いただいています。

今回朗読する作品は、「蛟竜(こうりゅう)逝(ゆ)キテ」と題するもので、同じく一乗谷ディスカバリープロジェクトのメンバーである作家の赤神(あかがみ)諒(りょう)さんが本朗読会のために書き下ろした短編小説です。幕末前後

の養浩館庭園を舞台に、福井藩主 松平春嶽と藩士 橋本左内及び由利公正(きみまさ)との交流が描かれています。榎木孝明さんと赤神諒さんお二人のコラボレーションによる朗読を、二胡の優雅な旋律とともにお楽しみいただけます。

観覧者については本日から一般募集を開始し、朗読会の様子はYouTubeでライブ配信を行います。観覧者の募集方法については、市ホームページに掲載しています。また、広報ふくい10月10日号でもお知らせしますので、市民の皆様、ふるってご応募ください。

なお、この朗読会は、新幹線福井開業に向け、夜間における養浩館庭園の新たな活用方法を提案するものでもあり、一般参加者の他、県内外の旅行会社も招待しております。開園30周年を機に、養浩館庭園の魅力を全国に向けて発信する新たな試みとなりますので、多くの皆様に、ご覧いただきたいと思っております。

次に、福井市防災センター 地震体験装置のリニューアルについてです。

昨年度から整備を進めてまいりました、福井市防災センターの地震体験装置の更新工事がこのたび完了し、10月1日から運用を開始いたします。更新した地震体験装置は、旧装置では再現が不可能であった、上下、斜め方向への動きが可能であることから、実際の地震に より近い揺れを体験することができます。

今回、地震体験室内に100インチのスクリーンとスピーカーを設置し、地震の揺れに連動して、地震の映像や音などを流すことで、視覚や聴覚を交えた、非常にリアルな地震体験を可能としております。さらに、投影する映像は、子供から大人までの各年齢層や時間帯に応じた複数の状況選択が可能で、日常生活の様々な場面において、突然発生する地震への正しい対応を学ぶことができる仕様となっています。加えて、高齢者や障がいがある方にも、安全に体験していただけるよう、手すりやスロープ、バリアフリー、点字などを備えております。

市民の防災力の向上を図るには、施設のリニューアルだけではなく、地震を体験してどう感じたのか、どのような対策が必要であるかを学んでいただくことが重要と考えます。そこで、体験学習に際しては「基礎知識の習得」「地震体験」「ふり返り」の3過程を通じて、地震発生時の防災行動力を身に付けることをねらいとしています。

今後は、これまで以上に多くの方々に防災センターを訪れていただき、リニューアルした地震体験装置などを通して、いざという時、自分自身や家族を守れるよう、備えを強化していただくことを期待しております。

次に、年末に向けたふるさと納税の普及拡大についてです。

ふるさと納税は、これから年末にかけて、寄附が集中する時期を迎えます。また、北陸新幹線福井開業が目前に迫り、福井への注目度が非常に高まってきています。そこで、この機会により多くの皆様に福井市を応援していただけるよう、年末までの3か月間を「ふるさと納税強化期間」と位置づけ、返礼品を含め、本市の魅力を大いにPRしてまいります。

1つ目は、新たなふるさと納税ポータルサイトの開設です。現在本市が寄附を受けている「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」に加え、2つのポータルサイトを新たに開設し、寄附窓口を増やします。1つは「ふるなび」で、10月に開設します。高額所得者からの寄附割合が高い人気のサイトであり、寄附単価が高い本市の返礼品の掲載が効果的と考えています。もう1つは、急成長中の「マイナビふるさと納税」で、11月に開設します。運営主体であるマイナビは、新卒就職サイトや社会人の転職サイトなどで広く認知されており、特に、若年層から社会人層を中心に本市の返礼品の魅力を各種メディアにてPRすることができます。こちらのモニターに映し出されているものが、10月から新たに開設する「ふるなび」のポータルサイトです。ページ内では福井市の紹介とともに、厳選した返礼品を掲載しています。

2つ目に、集中的な広告宣伝によるPRです。本日から「楽天ふるさと納税」に北陸新幹線特集ページを設けました。こちらがその特集ページです。新幹線開業後の観光客増加に向け、ページ内では、本市の宿泊施設で使えるトラ

ベルクーポンや、本市を訪れた際、福井駅周辺で購入や飲食ができる返礼品などを紹介しています。

各ポータルサイトのトップページなどにも返礼品の特集ページを設け、寄附者の増加につなげていきます。ふるさと納税を通じて、本市の魅力をより効果的に発信することで、本市ファンのさらなる拡大につなげてまいります。

私からは以上です。

< 質疑応答 >

【広報課長】

それではただ今説明がありました案件につきまして質疑応答を行います。

【中日新聞】

ふるさと納税について、今年目標額及び直近の実績を教えてください。

【まち未来創造課長】

今年目標額は7億5千万円です。直近の状況については、昨年と比較して8月の金額が約2倍に伸びています。9月も非常に大きな数字となっており、順調に寄附額が伸びてきていると思っています。

【中日新聞】

今の実績としては、どれぐらいの金額なのでしょう。

【まち未来創造課長】

金額的には、1億円を超えたぐらいです。先ほど市長も申し上げましたが、年末の3ヶ月が年間を通して一番寄附が多い時期です。その時期を含めて7億5千万円を目指しています。

【中日新聞】

取り扱う商品は、ふるさと納税ポータルサイトごとに棲み分けをしているのですか。

【まち未来創造課長】

今、「ふるさとチョイス」と「楽天ふるさと納税」という二つのサイトを使っていますが、「ふるさとチョイス」の方が品数的には多いかなと思っています。特に棲み分けはないですが、その様な形で掲載しています。

【中日新聞】

新しい2つのサイトですが、掲載期間は12月末までの期間限定なのか、それとも当面4つのサイトで続けていくのでしょうか。

【まち未来創造課長】

10月から「ふるなび」、11月から「マイナビふるさと納税」を開設し、当面4つのふるさと納税ポータルサイトで続けていくことを考えています。

【福井新聞】

ふるさと納税の取り組みに関して、いろんな納税ポータルサイトが開設されますが、10月1日からふるさと納税の制度改正もあり、非常に注目されるタイミングです。都市間競争も、これまでいろいろと国から指摘がありました。ふるさと納税制度に関する考え方と、今後の福井市としてのふるさと納税の取り扱い方について教えてください。

【市長】

福井市の産品をどのような形で整理し、返礼品に仕立てるか、品物の種類がある程度ないと上手くいかないのが、非常に難しいところもあります。そういうことを含めて、今回、4つのふるさと納税ポータルサイトを活用していきます。返礼品の作り方もいろいろと工夫しながら、やっていかなければならないだろうと思っています。自分のところの土産などを見て歩いて、あれをもらおうと嬉しいとかいろいろ思うところはあっても、実際返礼品になった場合に、本当に魅力のあるものかどうか幅のあるところなので、この辺りがなかなか難しいと思っています。

【読売新聞】

福井市のふるさと納税でおすすめは何ですか。

【市長】

福井市は従来からカニをお勧めしていますが、年によりカニの値段が非常に高騰する年があります。高騰した年は返礼品としての量が少なく、スカスカになってしまうことが難しいと思っています。

【読売新聞】

カニだと越前町やあわら市でも返礼品として出している市町はたくさんありますよね。

【市長】

海のあるところではありますが、海のない地域ではカニは返礼品として出せないですね。

【広報課長】

他にございませんか。ご質問がないようですので、これで市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。